

## CREST「生命動態」第3回領域会議および第3回数理解デザイン道場の開催報告

開催日： 2014年10月28-29日（領域会議）、30日（数理道場）

於： 沖縄科学技術大学院大学 セミナールーム（領域会議）、シーサイドハウス（数理道場）

### 概要：

平成26年度採択の4チームが加わり、初めて全15チームが顔を合わせた第3回領域会議。今回は、澄み渡った青い空がどこまでも広がる山本研究総括のお膝元、沖縄科学技術大学院大学で10月28日～29日に開催しました。



領域会議では、研究計画・進捗の発表に加え、若手研究者によるショートプレゼンテーションに加え、特別ゲストによるナイトセミナーを行いました。

参加者は、山本研究総括、特別ゲストとしてお迎えした中西重忠先生（公益財団法人大阪バイオサイエンス研究所 所長、CREST/さきがけ「生命システムの動作原理と基盤技術」研究領域 研究総括）、領域アドバイザー9名、全15チームの研究代表者・グループリーダー・研究員等に加え、同じ戦略目標を分かち兄弟領域、さきがけ「細胞機能の構成的な理解と制御（上田泰己研究総括、東京大学 教授）」から研究者4名が参加し、総勢130名近くによる百家争鳴、寸暇を惜しんで熱い議論を繰り広げました。



研究進捗発表では、研究代表者による発表に加え、グループリーダーに途中交替して補足発表を頂く等、非常に密度の濃い発表と議論が繰り広げられました。また、クロマチン構造、血管や組織構築、色素パターン・骨格、生物時計から記憶など幅広い生命現象をターゲットにし、それを千差万別の数理的手法で巧みに再構築、近似・処理するチームがそろそろ本領域ならではの、生命現象の階層を超えた多様性のあるコメントや質疑が多数出されました。



また、領域会議の途中、比較的若い各チームの研究参加者 20 名より、2.5 分間のショートプレゼンテーションが熱く繰り広げられました。短時間の発表にもかかわらず、(1)スライド（美しい・見やすい・インパクトがある、説明なしでも要点が理解できる流れと構成）、(2)研究内容（解析方法の妥当性、結論の妥当性、データの質や量）、(3)発表技術（説明が良い（理解度と熱意も）、発表時間厳守）という審査基準を高い水準で満たしつつ、ポイントを突いたインパクトのある発表ばかりで、「生命動態」研究を支える優秀な人材が育っていることが伺えました。

非常に盛り上がったショートプレゼンテーションは、研究総括、中西先生、領域アドバイザーによる審査を経て、Best of short-presenters の 3 名に対し、ささやかな表彰を致しました。



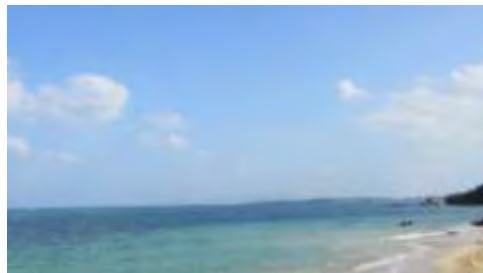
恒例のナイトセミナー兼交流会では、三品昌美アドバイザーより、「全 15 チームが揃い、今後は成果を出していく段階に進んだ。」と、激励とご挨拶を頂きました。ナイトセミナーでは、特別ゲストとしてお迎えした、中西先生より「行動選択の情報処理機構」と題した特別講演を頂きました。中西先生からは、大脳基底核の神経回路が、運動制御、報酬行動、忌避行動にどのような重要な役割を果たしているのか、記憶と絡めてお話し頂きました。また、中西先生は、平成 23 年度に終了した CREST/さきがけ「生命システムの動作原理と基盤技術」研究領域のご経験等から、「ショートプレゼンテーションを非常に楽しく拝見した。若手が元気で頼もしい。」という主旨の、領域会議に対する感想も併せて頂戴しました。



10月30日は、領域会議に続いて、第3回数理解デザイン道場を当大学シーサイドハウスで開催しました。今回の道場は、郡宏道場長（お茶の水女子大学 准教授；影山チーム）の仕切りにて、4名の道場師範（話題提供者）がそれぞれ研究対象として扱う生命原理・生命現象を十分な実験データの提示と共に

説明し、実験の場で解釈の出来ない結果等の課題を紹介されました。その上で、数理モデルを使う目的と仮説を踏まえた上で、扱う／扱いたいモデルの説明を頂きました。今回は、実験研究者の参加が多かったため、郡道場長の仕切りで、実験研究者も質問しやすいような雰囲気づくりが心掛けられました。

数理デザイン道場の途中、ポスター発表時間を設け、若手研究者等 54 名からチームの課題を支える研究の詳細について発表を頂きました。他チームの研究代表者やグループリーダーから変化球的なアイデアを頂いたり、若手研究者同士で情報交換をして交流を深めたりと、発表終了時間を超えてもなかなか議論が尽きず、非常に充実した時間になりました。



※数理デザイン道場 HP: <http://www.jst.go.jp/kisoken/crest/mathdojo/mathdojo.html>

以上